

第三十三回 都留市ふれあい全国俳句大会

応募句の部

入賞作品集

一般部門

特別賞

大賞（文部科学大臣賞）

囀のまん中にある古墳かな

山梨県知事賞

万緑の飛沫の如き瀬戸の島

山梨県議会議長賞

故郷の近づいてくる雪の嵩

山梨県教育委員会教育長賞

連山の立ち上がりたる初御空

都留市長賞

大寒や轍の深きひと所

山梨日日新聞社賞

虫の骸に蟲むらがりて天高し

山梨放送賞

背を反らし狙ふ玉入れ天高し

富士急行賞

梟の啼き止む遠野物語

茨城県牛久市

永井 淑子

神奈川県小田原市

井上 靖

東京都世田谷区

宮岸 羽合

埼玉県行田市

高野 風声

山梨県山梨市

上野美穂子

大阪府箕面市

河野 良幸

東京都中野区

月城 花風

岩手県一関市

小山 尚宏

稲畑廣太郎 先生選

〔正賞〕

背を反らし狙ふ玉入れ天高し

東京都中野区

月城 花風

《選評》

秋の運動会の情景である。子供にとっては玉入れの籠はかなり高く感じる。背を反らして見上げた先には秋空が広がっている。運動会の季題を詠まず「天高し」と詠んだことで、一層景の広がりが描けた。

〔准賞〕

青空に竹とんぼめく鴟の贄

埼玉県さいたま市

関 とし江

角打ちの隣はきつと雪女

高知県高知市

山下健太郎

神様の糸のほつれや流れ星

愛知県岡崎市

西村 愛美

初空に残りし星の白さかな

東京都練馬区

鈴木 英晴

満天の星へデュエット猫の恋

山梨県富士河口湖町

山中 重武

「入選」

凍滝の四囲に広がる無音界

埋火や百三歳の恋ばなし

数へ日の雲を背負ひてガラス拭き

コンサートドロインの写す歌手の汗

霜柱富士の麓を押し上げて

剪定の音止み風に人の声

鷹柱積丹ブルー俯瞰して

夏帽子かぶり視線の柔らかく

眠らざる仔熊をいだき山眠る

放たれて飛び立てぬ鳩原爆忌

花冷やチタンの残る骨拾ひ

万歳の指の先から春となる

人の世の真中に旅の花火かな

ふらここやいつも子を待ち風を待ち

雪解富士まだ鳶色の三合目

千葉県木更津市

安田 蝸牛

神奈川県川崎市

武山 卓朗

兵庫県神戸市

安井 恭子

東京都小平市

田中 瑞穂

埼玉県川越市

関口 幹雄

埼玉県春日部市

中野 泊雲

北海道札幌市

田中 政行

長野県御代田町

内堀 隆久

新潟県新潟市

北 悠休

岡山県津山市

岡田 邦男

兵庫県神戸市

平尾美智男

茨城県土浦市

高田 智子

神奈川県平塚市

しらが式部

静岡県富士市

貫名 弘子

山梨県身延町

赤池 一博

井上康明 先生選

〔正賞〕

大寒や轍の深きひと所

山梨県山梨市

上野美穂子

《選評》

大寒は、一月二十日前後、一年で最も寒い頃。寒気について働く人の作った轍に作者は深い影を見ている。大自然の推移とその中で暮らす人の接点を陰影豊かに表現している。

〔准賞〕

梟の啼き止む遠野物語

岩手県一関市

小山 尚宏

銃口の向こう母熊立ち去らず

千葉県柏市

与那原三郎

寒雷や金剛力士像の臍

神奈川県座間市

宮代 麻子

悴みし手に甦る母の息

山梨県甲府市

成島玖美子

霊長類サル目ヒト科文化の日

滋賀県湖南市

岡崎秋胡子

「入選」

上州の光と風や大根干す

AIは愛を測れず花八手

生殖器つかひきつたる蝸牛

搾乳の白ほとばしる初日かな

冬枯るる東京といふ大伽藍

海原に国境はなし鳥帰る

縁側に蟬の骸のころがれる

凍雲や山脈を押し潰すかに

注連縄の太き家よりボクサー犬

雨そそぐ聖夜のコインランドリー

妻にして雨女なり冬ざくら

色深きものを購ひ冬仕度

太陽をこつぱみぢんに冬の波

地球てふ大きな磁石鳥渡る

除染土を眠らせ雪のまた積もる

茨城県つくば市

朝岡 恭子

千葉県柏市

岡田 春人

千葉県千葉市

千葉 信子

東京都江戸川区

羽住 博之

東京都府中市

櫻井 光

神奈川県横浜市

佐野 良彦

神奈川県横浜市

柴田 雅春

富山県入善町

四十物文代

長野県塩尻市

大鳥 由嵩

長野県須坂市

佐野よつば

大阪府和泉市

押見げばげば

大阪府大阪市

立川 六珈

岡山県岡山市

伴 明子

岡山県津山市

岡田 邦男

宮崎県宮崎市

石山 裕二

小澤實 先生選

〔正賞〕

虫の骸に蟲むらがりて天高し

大阪府箕面市

河野 良幸

《選評》

大きな虫の骸にたくさんの小さな蟲がむらがっている。凄惨な情景である。虫と蟲の字の書き分けも効いている。何より「天高し」への転換がみごと。非情な現実が描かれた。

〔准賞〕

梅花藻の上に落葉の動かざる

神奈川県座間市

石垣 葉星

毛皮着て毛皮剥ぎある男かな

長野県須坂市

佐野よつば

孵卵器にひよこの声や春隣

愛知県東浦町

伊藤 京子

カンカンと造船所鳴り夏は来ぬ

三重県名張市

大石 桑鼓

滝壺の底まで届く滝の水

大阪府大阪市

今井 文雄

「入選」

マフラーぐるぐるモジリアーニの首

まつくろの爪まつくろの稲子炒る

灯せば灯も酒の香りや新走

笹鳴やペン先当たたるインク瓶

おしめ替え手の冷たさを謝りぬ

ひとり酒山葵の花をひとつまみ

本堂を開け放ちたる初披露

冬ぬくし指で触れ読む祖母の墓誌

立春やポメラニアンと大男

見えすぎる眼鏡なんだか春うれひ

ジーンズを叩いて干して秋高し

笠智衆微笑むやうな小春かな

寒稽古古式泳法扇に書

話しかけないで毛糸を編む背中

葬列をよけげんげ田に降りにけり

茨城県牛久市

永井 淑子

栃木県壬生町

吉成 裕

東京都世田谷区

関戸 信治

東京都中央区

清水阿貴子

東京都港区

鈴木 昌子

神奈川県横須賀市

桜 小 町

山梨県甲斐市

清水 睦山

山梨県都留市

見高美代子

山梨県笛吹市

辻本美代子

岐阜県大垣市

吉田てるみ

岐阜県神戸町

森 瑞穂

愛知県豊田市

城山 悠水

愛知県名古屋

安食多津子

兵庫県丹波篠山市

中川 修子

愛媛県東温市

境 公二

片山由美子 先生選

〔正賞〕

連山の立ち上がりたる初御空

埼玉県行田市

高野 風声

《選評》

ふだん仰いで暮らしている山々かもしれないが、「立ち上がりたる」ととらえたことで改まった年の空気を感ぜさせる。堂々たるしらべと格調の高さが新年の俳句にふさわしい。

〔准賞〕

囀のまん中にある古墳かな

茨城県牛久市

永井 淑子

深々と四方へ一礼鍬始

埼玉県新座市

山本 末彦

新涼の駅舎にひびく発車ベル

神奈川県横須賀市

文 彦

雨そそぐ聖夜のコインランドリー

長野県須坂市

佐野よつば

昼の虫迷路のやうな住宅地

京都府京田辺市

古野由美子

「入選」

眠りたる檻のライオン冬の星

浮世絵の波のしぶきや初暦

朝日受く待春の窓磨かれて

ほのぼのと甲斐を染めゆく桃の花

白菜をざくりと割って空青し

文机に木の温みあり年暮るる

立冬や水底深く權を入れ

校庭の樹齡百年銀杏散る

四月八日鎌倉駅に待ち合はず

あかときの春の夢より抜け出せず

二つ三つ報告のある墓参り

風鈴を吊り戸締りのなき暮し

百年を生き抜く母のお正月

いち日をしづかに畳む春日傘

障子貼りだんだん息の合つてくる

北海道札幌市

下山 春陽

埼玉県春日部市

桐野 鈴子

東京都板橋区

樋口レイ子

東京都江戸川区

羽住 博之

東京都西東京市

高岡 愛

神奈川県相模原市

山田 凍崖

神奈川県大和市

保里よし枝

山梨県都留市

松浦 佳子

山梨県富士吉田市

青柳 時子

岐阜県土岐市

加藤 桂

愛知県名古屋市

稲熊 明美

滋賀県長浜市

東野 了

和歌山県和歌山市

阪口 幸子

和歌山県和歌山市

中浴 智美

山口県下関市

武石 道代

高野ムツオ 先生選

〔正賞〕

万緑の飛沫の如き瀬戸の島

神奈川県小田原市

井上

靖

《選評》

機上から眺めた瀬戸内の島々だろう。どの島も緑をサラダのように盛っている。巧みな比喻によって、アメノヌボコから滴った泥の島々が、夏の盛りを迎えた様子を想像できる。原初感覚が生きている。

〔准賞〕

入れ墨の肌を頭に銚遡る

青森県深浦町

蒲田

吟竜

おほかたは戦争知らず着ぶくれて

埼玉県さいたま市

古郡

孝之

天金の開かずの頁梅雨じめり

東京都荒川区

吉田美智子

影ありて生身と知りぬ盆踊り

石川県金沢市

前川

久宜

秋耕の鋤を受け止めたる山河

兵庫県明石市

小田

和子

「入選」

梟の啼き止む遠野物語

囀のまん中にある古墳かな

まつくろの爪まつくろの稲子炒る

村消えて水没林の若葉かな

存へて今も戦後やとろろ汁

富岳より音運び来る泉かな

地のうねりそのまま花野のうねりかな

鶏卵のぬくみのごとく春めきぬ

瓦には瓦のかたち春の雪

解けながらあなたを待ってゐた氷菓

風切羽喰い残されて冬夕焼

白鳥の広げし羽の迫り来る

鈴音のやうに水音夕花野

雀らに遊ばれ愉し捨て案山子

終戦忌波におんなじ波のなし

岩手県一関市

小山 尚宏

茨城県牛久市

永井 淑子

栃木県壬生町

吉成 裕

群馬県前橋市

進來すゝむ

埼玉県さいたま市

古郡 孝之

埼玉県狭山市

東沖 和季

東京都世田谷区

宇田川紀代子

神奈川県茅ヶ崎市

塚本 治彦

神奈川県横須賀市

橋本 徹

神奈川県横浜市

石田 樹覚

福井県あわら市

小林 史於

山梨県笛吹市

辻本美代子

長野県長野市

常盤しがこ

和歌山県和歌山市

中村 志石

広島県東広島市

福岡 宏

西村和子 先生選

〔正賞〕

故郷の近づいてくる雪の嵩

東京都世田谷区

宮岸 羽合

《選評》

都会から列車かバスで帰郷する時に気づいたことを素直に詠んでいる句。だんだん雪の嵩が多くなることで、故郷が近いと表現して、実感あふれる作品となった。

〔准賞〕

残業のひとりひとりの良夜かな

茨城県牛久市

永井 淑子

白鳥の一羽のひかり加はりぬ

静岡県磐田市

掛井 広通

凧か座敷童子の泣く声か

大阪府堺市

棕本 望生

解脱するやうに寺領の銀杏散る

広島県広島市

正山 史明

九百の大根吊るす校舎かな

熊本県熊本市

槻木 俊彦

「入選」

紙漉きの村より嫁ぎ紙を漉く

駅裏のホテルに聖書大西日

牛飼を止めてむさぼる朝寝かな

遠富士や小枝に群るる初雀

浜風を裂いて空手の寒稽古

着ぶくれて世渡り下手で押し通す

年忘れ独り身ばかり集ひたる

蝶もつれ落ちゆく谷の深さかな

元朝やとなりの犬に吠えらるる

畏はづすやうに筍掘りにけり

炎昼や路面電車の歪み来る

また一軒空き家となりて虫の闇

藍染めの藍に染む指賀状書く

角打ちの隣はきつと雪女

夏潮へ傾く能登の千枚田

岩手県一関市

小山 尚宏

岩手県盛岡市

佐藤ひこあき

福島県西郷村

黒澤 正行

埼玉県行田市

高野 風声

埼玉県ふじみ野市

佐藤 舟若

東京都世田谷区

関戸 信治

山梨県大月市

後藤はるよ

滋賀県長浜市

東野 了

大阪府茨木市

大門 一郎

奈良県天理市

緒方 順一

広島県広島市

正山 史明

広島県広島市

正山 史明

徳島県鳴門市

井形 順子

高知県高知市

山下健太朗

高知県黒潮町

宮川 昭男

星野高士 先生選

〔正賞〕

罇のまん中にある古墳かな

茨城県牛久市

永井 淑子

《選評》

この季題は春季のものでいかにも晴れた日のことが想像できる。俳句は短いので省略が大事。古墳の今でもある魂と現在の罇はつながっているのかも知れない。中七も妙。こう言ったことも写生の延長線上にある一句だ。

〔准賞〕

山鳩のこゑを遠くに枯野ゆく

神奈川県川崎市

中村きよみ

鰻屋のうなぎの文字のうねりけり

岐阜県土岐市

北泉 山東

いま一度故山を仰ぎ卒業す

三重県四日市市

赤塚 靖子

探梅行姥捨の碑に集い合ひ

大阪府富田林市

奥野とほる

寺町の瓦の匂ふ緑雨かな

兵庫県西宮市

北村 季凜

「入選」

凍蝶や大樹の影のその中に
後山より甲府盆地の春眺む
甲斐駒の風甘くなる吊し柿
秋灯し十指の紡ぐ駅ピアノ
大夏野湧き立つ雲の麓まで
寒月やゴールデン街細き空
银杏散る旧講堂の鉄扉
こぼれたる空の色なす犬ふぐり
新涼の駅舎にひびく発車ベル
暖かや柱の全て波のやう
薫風や葎戸を上げ巫女の舞ふ
引退馬睫毛の先に春の雪
兄弟の声の重なり雪達磨
会うて話すそれだけのこと秋の雨
秋風に戸口の鈴の音細し

岩手県一関市	砂金 眠人
栃木県宇都宮市	大島 康正
埼玉県さいたま市	神沢 英雄
千葉県船橋市	多々良修市
東京都世田谷区	吉野 新一
東京都豊島区	野瀬 博興
東京都あきる野市	勇 晴美
神奈川県大和市	中浜 智枝
神奈川県横須賀市	文 彦
新潟県新潟市	佐野和太留
山梨県南アルプス市	河西 浩子
岐阜県養老町	佐藤 咲楽
愛知県名古屋市	亘 航希
大阪府豊中市	荻野ひとみ
愛媛県西条市	川井 康陽

高校生・大学生部門

特別賞

大賞（高山麿崎賞）

初雪や窓際だけがざわついて

神戸市立須磨翔風高等学校

御所 桃花

山梨県知事賞

百日紅原爆の花咲いてゐる

延岡学園高等学校

河野 麻桜

山梨県議会議長賞

しつかりと踏み抜いてみる氷かな

桜花学園高等学校

天野悠衣音

山梨県教育委員会教育長賞

正二十面体になれふきのとう

武蔵野大学

舘山 恵匠

都留市長賞

来たる日の我も支えよ霜柱

星陵高等学校

三澤 莉緒

都留文科大学学長賞

同調の空気の重さ帰り花

星陵高等学校

久保田結月

長谷川權 先生選

〔正賞〕

百日紅原爆の花咲いてゐる

延岡学園高等学校

河野 麻桜

《選評》

百日紅を「原爆の花」とした断定が力強い。

正賞、准賞、入選、みな姿、形のまとまった句より高校生・大学生の精神と肉体の宿る句になった。

〔准賞〕

花冷や高校生の粹の中

北海道旭川東高等学校

餅 入 桜

霧や狩人の一步を踏む深さ

武蔵野大学

高崎 椿

正二十面体になれふきのとう

武蔵野大学

舘山 恵匠

帰宅後の鍵をおく音冬静か

加藤学園高等学校

川口 路花

同調の空気の重さ帰り花

星陵高等学校

久保田結月

「入選」

神の留守コールセンター混雑中

冬星や夜はいまだ名を持たず

霜柱踏めば一日の音ひびく

閑かなきあかくそまるよ火事の山

モンゴルのきれいな夏の星と月

さびしきは夜の博多の虎落笛

ひとりきりのBグラウンドの冬景色

悴んだ手に囲まれる炎かな

海底の夜をまるごと呑む鯨

黒板の汚れの白き春惜しむ

桃色に輝く頬に恋の冬

一族で一人不機嫌初写真

冬ざれに手袋の中の小さな手

凍鶴の凍てきれぬまま生きてをり

かたつむりまつすぐ行かぬ面白さ

星野高等学校

永塚 真歩

鹿島朝日高等学校

一日 一生

千葉敬愛高等学校

今野 稜久

山梨県立都留興譲館高等学校

相馬 昊成

山梨県立都留興譲館高等学校

バトナランバトエルトン

星陵高等学校

望月 心陽

星陵高等学校

渡邊 壮太

桜花学園高等学校

安藤 遙花

同志社女子大学

吉田 彩乃

大阪府立咲くやこの花高等学校

赤木ゆりみ

神戸市立須磨翔風高等学校

竹内 結花

岡山県立岡山朝日高等学校

東 実弥

柳井学園高等学校

N

愛媛県立松山東高等学校

北代 瑞稀

延岡学園高等学校

河野 麻桜

正木ゆう子 先生選

〔正賞〕

初雪や窓際だけがざわついて

神戸市立須磨翔風高等学校

御所 桃花

《選評》

クラス中がざわつくような降り方ではなく、窓際の数人だけが気づいたということだろう。高校生の時、そんな日があった気がする。勉強に専念している静かな教室。確かな臨場感に引きつけられる。

〔准賞〕

朝霧や川音近き暮らしあり

千葉敬愛高等学校

な つ き

来たる日の我も支えよ霜柱

星陵高等学校

三澤 莉緒

しつかりと踏み抜いてみる氷かな

桜花学園高等学校

天野悠衣音

絨毯に散らばるルーズリーフかな

桜花学園高等学校

早野亜花莉

さわってもさわってもまだ雪のまま

同志社女子大学

吉田 彩乃

「入選」

月齡とともに大きくなるセロリ
麦の秋遠い汽笛が昼を割る
春隣ハンドル握る我描く
底冷の暈を掴む素足かな
蝉死んでバーガーチェーン建ち上がる
サルトルを鞆の中へ曼珠沙華
白黒の祖父の背景冬木立
画素に還る祖父なり冬銀河
炭酸の泡のひとつに閉じこもる
まだ彼が好きという嘘桃の種
黒板に奥のありさう原爆忌
点滴のどの一滴も冬夕焼
小鳥来て貝の形のマドレーヌ
和太鼓の胸打つ音や夏の闇
蝉しぐれ校舎の影を風が行く

北海道旭川東高等学校 餅 入 桜
秋田県立秋田高等学校 中原 美濤
山形県立山辺高等学校 熊谷 柑菜
志学館高等部 伊藤 賢佑
渋谷教育学園幕張高等学校 来田 千斗
上智大学 小見 文乃
早稲田大学 高岡 大祐
早稲田大学 高岡 大祐
日本大学第二高等学校 高岡 奈央
山梨県立吉田高等学校 貫井 咲綺
名古屋高等学校 富田 輝
同志社女子大学 吉田 彩乃
同志社大学 津原 悠太
大阪府立咲くやこの花高等学校 赤木 ゆりみ
神戸市立須磨翔風高等学校 岡崎 莉実